(56) 大名沢（だいみょうざわ）鉱山跡－追記

１０年ぶりに、大名沢鉱山跡を再訪した。本鉱山の現状の確認とともに、ガーミンによる経路ログの取得も兼ねて。既報とともに見て下さい。

２０２０年８月

図１　４６１号を矢板から西行して来たら、玉生（たまにゅー）地区のＡ点の所で右折し、東荒川に沿って北上して行く。Ｂ点の三叉路では左側に進み、Ｃ点付近で右側にある細い林道に入っていく。赤丸が鉱山跡である。

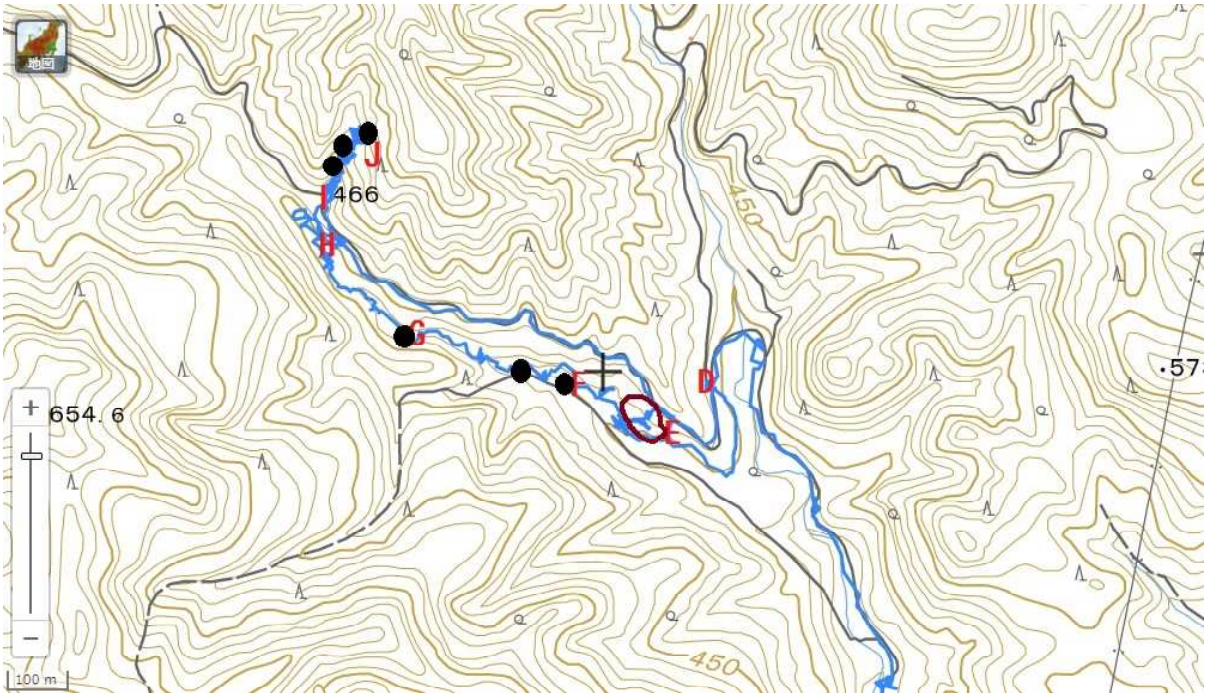


図２　図１の部分拡大図。林道はズッと先まで、Ｉ点より先まで車で行けるが、Ｄ点当たりで駐車し、ここから歩くことを勧める。黒丸が今回確認した坑口跡である。Ｅ点付近は沢の左岸に結構広いプラトー（赤輪）となっており、石垣、ズリ跡など鉱山施設跡を忍ばせている。なを、上流のＪ点付近もプラトーとなっている。

鉱山跡写真

写真１　Ｃ点付近である。赤矢印のように前方の右側にある細い林道に入って行く。

写真２　Ｄ点付近である。この付近に駐車しよう。前方に延びている林道の左側に廃れかかっている林道がある。矢印のように進んで行くと、沢と出会う。

写真３　沢の左岸を進んで、Ｅ点付近に近づいた。前方に幾つもの石垣組があり、更に前方は広いプラトーになっている。なを、右側上方には林道が延びている。

写真４　Ｅ点でのプラトーの沢側は崩れたズリ跡となっている。

写真５　Ｆ点付近で、沢水準の右岸に、坑口跡を確認した。赤輪の黒いところ。

写真６　写真５で示した坑口跡に接近し、入口から内部を覗く。何故か霞がかった写真になっている。冷気は感じなかったが。

写真７　写真５の坑口跡の少し上流、同じくＦ点付近のこれも沢水準の右岸で確認した坑口跡。赤輪の黒いところ。

写真８　写真７で示した坑口跡に接近し、入口から内部を覗く。こちらは写真６と違ってすっきりと写っている。

写真９　Ｆ点より少し上流に、小さい滝があった。滝壺もあり水量があると渡渉は難しい。右側を大きく迂回して上流に出た。

写真１０　Ｇ点付近。右岸の沢水準で確認した「坑口跡」。両側に確りとした石垣がある。その先は崩れているが、「坑口」があったと思われる。

写真１１　写真１０で示した「坑口跡」の沢の対面にはズリ跡らしい大きなマウントがある。その上はは結構広いプラトーになってもいる。

写真１２　Ｈ点付近。多段にわたって石垣組がある。鉱山施設跡と判断した。

写真１３　Ｈ点付近から上部にある林道に向かって斜面を登り上がった。林道上のＩ点である。赤矢印のように、正面の小さい涸れ沢を少し登るとＪ点に行ける。

写真１４　Ｉ点から少し登り上がったところ。沢の右岸に、入口が埋もれかかった坑口跡を確認。赤輪のところ。

写真１５　写真１４で示した坑口跡に接近しての一様。赤輪のところ。坑口はほぼ埋まってしまったようである。

写真１６　沢を更に少し登り上がると、前方にマウントがある。ズリ跡のようである。先はプラトーになっている。

写真１７　Ｊ点のプラトーの手前当たりの沢の右岸にあった「陥没跡」。赤輪のところ。

写真１８　写真１７で示した陥没跡に接近しての一様。底は深そう。

写真１９　Ｊ点のプラトー部の上方にあった坑口跡。赤輪の部分。

写真２０　写真１９で示した坑口跡の入口から覗いた内部の様子。

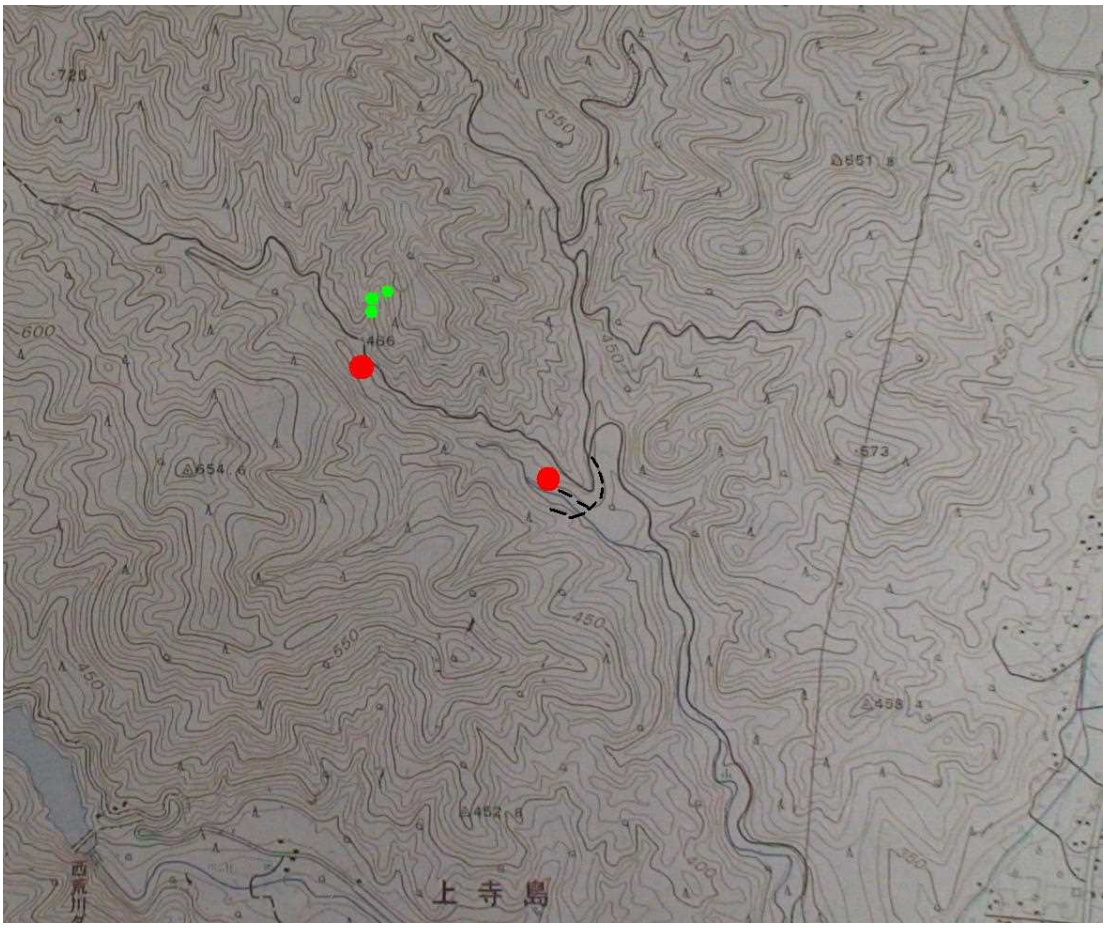
(56) 大名沢（だいみょうざわ）鉱山跡

栃木県塩谷地区にある。参考文献（１）によれば、「釜ノ沢鉱山の北に位置し、石英斑岩中の鉱脈で、鉱石は黄銅鉱に富む。」

玉生から上寺島を目指して道を北上する。下寺島にはいると道路は三叉路となる。ここから上寺島方向に、６００ｍ～７００ｍ当り進んで、右側の林道に入る。が、車が速すぎると入り口を見失う可能性がある。後掲の写真を参照すると良い。現時点では道路上を送電線が渡っている少し手前の所である。この林道を、沢を左下に見て北上していく。林道に入ってから約２．５ｋｍ当りで、沢に架けられている橋の所に行き着く。地形図中の中央当りにある∩型の林道の所である。この橋から少し林道を進むと、地形図に示されているように三叉路に行き着く。ここの先が鉱山跡の１つである。ここへの行き方は２通りある。三叉路の所に立つと、南方向に伸びている林道の左前方方向に、市販の地形図には記載されていない林道が伸びていることがわかる。下の地形図にはこの林道を、破線で書き入れている。この林道を進もう。１００ｍほどすすむと沢に出会う。沢を渡らずに、沢を左にして上流へ進む。わずかながら道の跡がある。ここから１００ｍ~２００ｍ上流へ行くと、岩垣が組まれた鉱山跡がある。赤丸の所である。

赤丸のところで、山側に少し登れば、立派な林道に出られる。先ほどの三叉路から、この地点に来て、林道から沢の方に下り、鉱山跡にたどり着くのが２つめの経路である。

手持ちの地質図によれば、大名沢鉱山の鉱山マークはこの所ではなく、地形図中の「・４６６」当たりにあった。この地質図を手引きに、この付近で探査をしていたら、偶然通りかかった現地の人から、鉱山跡はここより下の方、つまり赤丸の当たりだと教えられた。教えられた当たりで鉱山跡及びズリがあったのである。が、地質図との箇所とあまりにも離れていることが気になっていた。後日やはり現地に探査に出かけ、探査の結果「・４６６」付近で、坑口跡及び、その付近の沢で鉱山跡を見つけることが出来た。地形図中の「・４６６」付近の緑色と赤丸がそれである。



赤丸が鉱山跡。緑丸が坑口跡。破線は林道。

地図　　国土地理院２万５千分の１地形図「玉生」
探査日　　２０１０年４月、その他の日
参考文献
（１）「日本地方鉱床誌　関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、１９７３年。

鉱山跡写真

林道入り口。前方中央右側にある。白い大谷石の壁の直ぐ先である。

林道を進んでいって橋を過ぎた少し先の三叉路。林道は直進路とおおきく右に曲がっている路に分岐。が、中央左先に下り気味の林道がある。

以下、下（地形図中の下の赤丸）の鉱山跡

左に沢。正面中央に岩垣組が見える。鉱山跡である。岩垣の先は結構広い平坦地である。

ズリらしい箇所。孔雀石があった。

上の箇所を沢から見上げる。この所で後掲の黄銅鉱の標本を採集できた。

正面中央が、坑口跡らしいが、わからない。この場所から山側に登りあがると林道に出られる。

以下、上（地形図中の上の赤丸）の鉱山跡

地形図中の「・４６６」の所の沢。この箇所に駐車できる。この沢の先に、数十ｍ登りあがると、坑口跡などがある。

上記沢を登っていく。ズリ、マウントらしい。この右側には深い縦坑がある。落下注意。この先、右側に立派な坑口跡が倒木に埋もれそうになっている。下の写真。

中央の黒い部分が坑口跡。近づいて観察すると、立派な坑口である。倒木が多い。

車を駐車しているところから、大名沢に向かって、沢を降りていく。大名沢に隣接して、水平な岩垣組が何段にも渡って残っている。鉱山施設跡であろう。

上の鉱山跡付近。 沢に近接してズリらしい箇所がある。下の石川原は大名沢。

採集鉱物写真

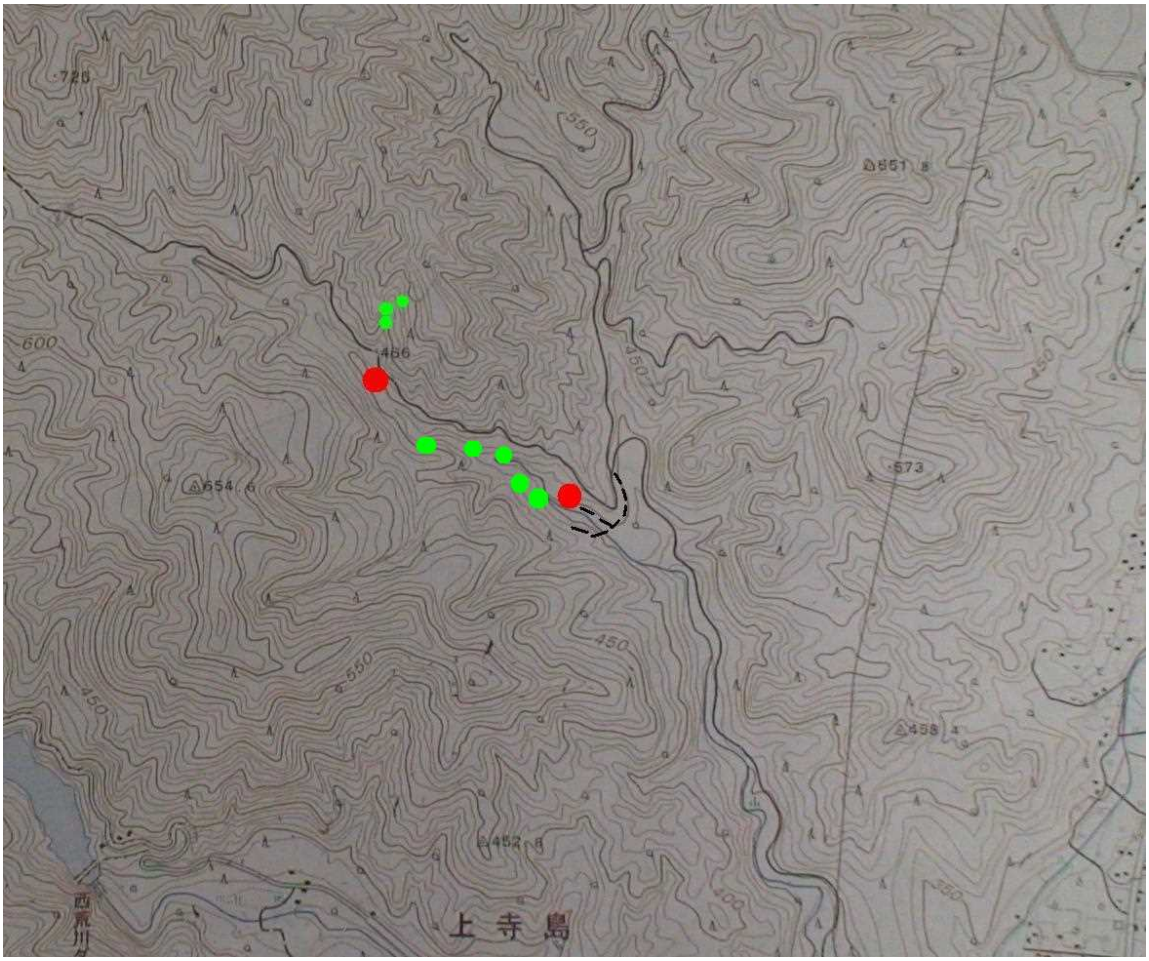
下の鉱山跡での採集試料。

真ん中当りに孔雀石のついた母岩。銅鉱山であることの証拠である。

厚さ１ｃｍ×８ｃｍ×７ｃｍの黄銅鉱が母岩にこびり付いている。

上の鉱山跡ではめぼしい標本は採集できなかった。小さい孔雀石を見かけたぐらいである。両方の鉱山跡とも、時間をかけて探査したら、結構な標本を採集できよう。

追記
　２０１０年１２月下旬に、大名沢を下の赤丸の鉱山施設跡の所から、上の鉱山施設跡まで遡ってみた。快適な沢歩きであった。図中の黄緑丸で示しているように、多数の坑口跡があった。が、転石、ズリなどは見いだせなかった。眼力不足か。



今回確認した坑口跡を、前掲の地形図に付加した。